

アジア太平洋地域を中心とする低緯度電離圏研究計画の現状

山本 衛 [1]
[1] 京大・生存圏研

Status of research projects for low-latitude ionosphere over Asia and Pacific regions

Mamoru Yamamoto[1]
[1] RISH, Kyoto Univ.

Low-latitude ionosphere and variety of phenomena in the region are important research topics for years. There are much interests on couplings between the ionospheric plasma and the neutral atmosphere. Observations from the ground, satellite and rockets are very important to conduct this kind of studies. In this invited presentation, the author would like to show recent and/or near-future research projects that benefit the related studies in the Asia and Pacific regions.

近年の電離圏研究の研究トピックのひとつは磁気赤道域・低緯度域の擾乱現象である。プラズマバブルの精測とその発生原因の究明、衛星通信や衛星測位に対する影響などが研究テーマとなっている。また電離圏プラズマと背景の熱圏（電気的中性大気）の相互作用には、下層から伝搬してくる大気波動が電離圏に与える影響の解明を含み、強い興味を持たれている。電離圏の空間的に離れた領域が磁力線を通じて相互作用する現象も興味深い。これらの研究は地上や飛翔体（衛星やロケット）からの種々の観測によって支えられており、現在も様々な計画が立案・推進されている。この招待講演では、アジア太平洋地域の電離圏研究にかかわる最近あるいは近い将来の特色ある観測装置や計画について、著者の知る範囲で、完全さを求めず偏りを恐れず、なるべく多く紹介したい。研究分野の将来を考える議論の発端になればよいと思う。